

世界ジオパーク認定1周年

山陰海岸ジオパークで 見る・食べる・学ぶ・遊ぶ

山陰海岸ジオパーク世界認定から1周年！
ジオパークガイドが意外と知られていない見どころやグルメを紹介します。
あなたも山陰海岸ジオパークを見て、食べて、学んで、遊んでみませんか。
《問合せ》観光課 ☎21-9016



山陰海岸国立公園屈指の景勝地「日和山海岸」
竹野海岸まで続くリアス式海岸の見事な景観を見せています。



円山川エリアへGO!!

学ぶ

国の天然記念物「玄武洞」(赤石)

文化4(1807)年ごろ、江戸の儒学者柴野栗山しばのりっざんが、この洞を、古代中国の北方を守護する神「玄武」に似ているとして、「玄武洞」と命名しました。

《玄武洞が有名な三つの理由》

- ・岩盤に規則正しい節理(柱状節理)が見られ、きれいで珍しい
- ・明治17(1884)年、東京大学の小藤文次郎博士ことうぶんじろうが、玄武洞の石を「玄武岩」と命名
- ・大正15(1926)年、京都大学の松山基範博士まつやまもとりのりが、玄武洞の玄武岩で、地球磁場の逆転を発見

マンガ本「玄武洞で大発見」

玄武洞の科学的価値や由来などを、マンガで分かりやすく説明(玄武洞無料休憩所にあります)



玄武洞には、ほかにも「青龍洞」せいりゅう、「白虎洞」びやく、「北朱雀洞」きたすざく、「南朱雀洞」みなみすざくの、合計5つの洞窟があります。

案内を希望する方には、ガイドが付き添います。



タッチパネル式案内板(玄武洞無料休憩所)

玄武洞の成り立ちや地磁気の逆転、山陰海岸ジオパークの見どころなどを学習できます。

『県立コウノトリの郷公園』(祥雲寺)

昭和46(1971)年、日本の空から姿を消した、国の特別天然記念物コウノトリ…。

最後の生息地であった豊岡で、長年の人工飼育が実を結び、平成元(1989)年に待望のヒナが誕生しました。

「コウノトリを野生に帰すこと」「コウノトリも住める環境をつくること」を目標に、豊かな環境を再生・創造する必要性がありました。

そして、平成17(2005)年には自然放鳥が行われ、人里での野生復帰を目指す取組みは着実に進んでいます。

現在、100羽がこの公園で人工飼育され、48羽が野外で生息しています。

『ハチゴロウの戸島湿地』(城崎町戸島)

コウノトリの生息拠点・地域の生物多様性の核、湿地保護と環境教育の拠点

